

薫風

高尾グリーン倶楽部の 10年

龍 久仁人

高尾グリーン倶楽部は、森づくりボランティア団体として2009年に設立され、今年11月で10周年の節目を迎えました。主な活動は、高尾グリーンセンターの運営と森林整備活動で、これらを車の両輪として実施しています。

森林整備のフィールドは、青年の山部分林をはじめ、南高尾風景林に指定されている梅ノ木平国有林の全域、及びこれに隣接する民有林を対象に、間伐、除伐などの森林整備を進めています。また、高尾グリーンセンターの利用客等を対象に森林作業体験の支援を行い、市民や青少年、児童が森林とふれあう機会の創出に努めてきました。

これまで、これらの活動を支えていただいた森林管理署、全国林業改良普及協会はじめ地権者の方々、定例活動や体験支援に足しげく通ってくれた会員、センターを利用してくださった多くの方々にこの場を借り厚くお礼申し上げます。

風景林の整備活動は、今年度から森林管理署と「ふれあいの森づくり協定」を締結して、自主的な計画を策定して行うことになりましたし、「多様で豊かな森林」の復元に向けて新たにギャップ地での植

樹もスタートしました。また、これらのフィールドを活用して、多くの方々に環境保全の実践の場を提供する活動や様々な企画イベントを一層充実していきたいと思っています。

この時期に、会の機関誌として会報が創刊されることは、高尾グリーン倶楽部の活動をより広く、深く理解される手段を手に入れたことになり、今後の活動の大きなステップになるものと期待されます。活動の成果を記録に残すとともに、会員相互の情報交換のツールとして、またセンター利用者等に向けては、南高尾地域の森林の魅力発信や活動紹介のツールとして活用されることを願っています。



なんと言っても、チェーンソーで伐木することが楽しみです。出来れば太くて大きな木がいい(笑)作業もさることながら、いろいろな伐木技術の研究會みたいなことも、皆んなで実践しながら出来ると楽しいと思います。ロープを使って木に登り、枝打ちやトリミング、トップカット、リギング、スピードラインなどの特殊伐採なども実践させてもらえると、作業の幅も広がり、いろいろな状況に対応出来るようになって、楽しみも増えると思います。その様な研究會 & 作業みたいな機会を、定例会以

外にも有志でやらせていただくと嬉しいです。たまには、グリーンセンターを利用していただいで、伐木技術のビデオなどみながら研究會 & 宴會が出来るとたのしそうだなぁ、などとも思っています。月1回ぐらいのペースでテーマを決めて定例会以外での集いを設けてはどうでしょう。実施出来なくても出来なくても、その時の状況で臨機応変に。あまり堅苦しく考えないで出来る範囲で。



梅ノ木平国有林に生息・生育する希少な動植物について

高尾グリーン倶楽部では、2013年から梅ノ木平国有林に生息・生育する動植物の調査を行って来ますが、この調査において東京都が定めたレッドリストに掲載されている動植物が確認されていますので、本会報で紹介していきます。

東京都の評価ランクは次の通りです。

- 絶滅 (EX) : わが国では既に絶滅したと考えられる種
- 野生絶滅 (EW) : 飼育・栽培下、あるいは自然分布の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
- 絶滅危惧 I A 類 (CR) : ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が極めて高い種
- 絶滅危惧 I B 類 (EN) : I A ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 絶滅の危惧が増大している種
- 準絶滅危惧 (NT) : 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種 (以下略)

(1) 植物

今回は、ギンラン、ツチアケビ、カヤランの3種を紹介します。



①ギンラン
ラン科ギンラン属
絶滅危惧 II 類 (VU)
多年草、疎林の林床に生育
草丈10cm程、まれに30cm
西尾根のやや明るい林床に生育。



②ツチアケビ
ラン科ツチアケビ属
絶滅危惧 II 類 (VU)
森林内に生息する腐生植物
スギの林床や竹林内の同じ場所に
毎年発生する。



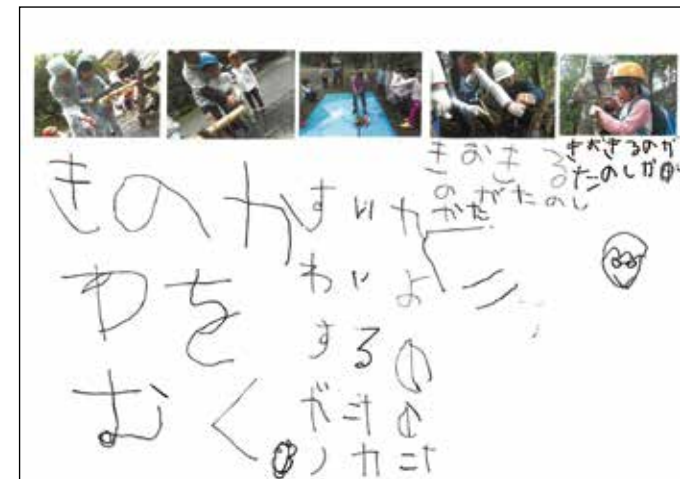
③カヤラン
ラン科カヤラン属
絶滅危惧 II 類 (VU)
多年草、小柄な着生植物
樹木の幹や枝に気根で付着する。
センター内サクラの幹に着生している。

「仙人」と言う言葉と「杣人」は良く似た文字である。今を去ること四半世紀ほど前！丁度北国では雪解けの遅い春を迎えた頃である。爽やかな薫風に誘われ蝦夷延胡索の咲き乱れる草原を狩勝峠から十勝平野へと向かう。1台のオフロードカーがいた。私にとって生涯忘れられない思い出となった旅はその翁をして「森の仙人」と言わしめた、貴重な経験となったのだ。その杣人の名は「石井賀考」氏。100万坪の森林を所有する林業家であった。私の父ほどの年の隔たり故、とうの昔天国に召された。「落葉松は幹周り50cm程度で伐採するほど華奢な植物では無い」これが大先生の口癖であった。

「木」の「戸籍簿」と書いて「木籍簿」(こせきぼ)と読ます。1本1本の木を木籍簿に登録しその成長をつぶさに観察記録する師の姿は正に「森のお医者さん」「森の仙人」であった。氏はしきりに「針広混交林」の持つ生物多様性について力説されていた。また、人間の叡智が森と地球の未来を見据え、描いた図に基づき適正管理を推し進めたとき原生林に負けない豊かな自然植生フローラが保証される

ことを身を以て示して来られたのだ。氏は言う「林道一つ造るにも自然の理に叶った法則があるのだ！」と。とくとくと自慢の森の中で持論を展開される氏の言葉の一つ々にただただ驚愕の思いであったことを今もまざまざと覚えている。因みに氏の下には数多くの研修生が集い、北大の著名な先生ですら足繁く通った歴史を持つ正に「森の神様」現代の「牧野富太郎」であったのだ。偉大な森の仙人永久にあれ！モンサントなどとも無い悪魔が世界支配を、目論む現代である。

たとえこの大地が放射能や農薬、人工生成物でポロポロにされようと、たとえ汚水だらけ！偽りの造形とアンドロイドに満たされた都市空間になろうとも／私は私の流儀で身近な里山を！森を！見守り、手入れし慈しみ／生活環境を！人としての生き方の正しくあるべき姿をただただ地道に発信し実践するのみ／この時代の流れに購い自然人としてひたすら日々生きるのみ／街の「山窩」となるために！都市のマタギとなるために！



2019 (令和元) 年7月4日から5日の1泊2日で成城つくしんぼ保育園の園児30名が除伐、丸太切りを体験しました。園児の皆さんから、「きをきるのがたのしかった」などのお礼のお便りが届きました。



時に「木材関係の仕事をしていたのですか？」などと尋ねられて、面はゆい思いをすることがあるが、木工とは無関係の業界で過ごしてきた。ただ、製造業の技術職だったので、モノ造りは好きだった。

たしか2013年の春先、青年の山の間伐材を有効に利用しようと考え、商品名アラスカンというチェンソーのアタッチメントを購入してもらった。アラスカンを用いて、試行錯誤しながら初めて板に挽いたのは直径20cmくらいのスギで、今思えば可愛らしい丸太だった。作業を進めてゆくと、ブッキラボウだった丸太が、使いやすい美しい木目の板に変身していった。この体験は結構感動的で、私の木工のスタートになった。

その頃は、障がい者の福祉施設に勤め始めた頃で、施設では様々な福祉用具が必要だった。「障がい者」とひとくくりされるが、障害の状況は一人ひとり大きく異なり、しかも経時変化してゆく。このため、一人ひとりにフィットするように、さまざまな福祉用具が手作りされていた。しかし残念なことに、職員が業務の合間に手作りするので、段ボールやガムテープでこしらえた、いわば「間に合わせ」のような用具が多かった。

普通の人には、生活に必要なものを、ガムテープや段ボールで間に合わせることはしない。その人なりの好みや予算で整えるのがあたりまえだ。障がい者だからといって「間に合わせ」の用具でずーっとガマンしてもらおうのはおかしい、と考えるようになり、そのうちに、作業療法士さんとも親しくなって、指導を受けながら福祉用品を製作するようになった。

- ①車いすテーブル；ヒノキの無垢材で4台製作した。とても感謝された。
- ②ジェンガ；ヒノキの無垢材で大きめにつくり、車いすからでも引けるように紐を取り付けた。ゲームの幅が広がった。
- ③お花紙のまるめボード；お花紙を直径15mmほどの球状に丸める作業があり、ある利用者さん用に自助具を製作したところ、大人気になって、多くの利用者さんが使うようになったので、15個ほど製作した。一番のヒット作になった。
- ④刺繍用の額縁；刺繍をする利用者さんがいるのだが、数か月～2年もかけて作った作品が、展示方法がなくて箱に仕舞い込まれていた。そこで廊下に展示できるように額縁を製作した。
- ⑤紙漉き乾燥台；牛乳パックのセルロースをほぐしてハガキに漉く作業があるが、乾燥するラックが無くて不自由だったので製作した。



驚くほど美しいヒノキのボール。6個造って使いものになったのは2個

- ⑥ボーリングセット；ルールブックの3/4スケールの大きさでヒノキを旋盤加工し、ピン10本とボール2個を製作した。ボールのころがり感やピンのクラッシュ感、本物のような臨場感があり人気になった。またヒノキのボールは驚くほど美しく、皆が感嘆した。

- ⑦その他；棚類、ラック類、マットハンガーなど、職員の負担を軽減するための木工品を製作した。

このように私の木工は、造りたいものを造ってきたというよりは、使用者や使用環境を把握した上で、必要とされる製品を造り、実際に使用されて感謝され、次の製品につながる、という恵まれたスパイラルに乗っていた。とても幸運だったと思う。

技術的に一番難しかったのはボーリングのボールで、いったいどうやったら造れるのだろう、とUチューブで勉強するところから始めた。数多くのサイトを調べたが、参考になったのは、ほとんどが米国のサイトだった。米国では、リタイア後に工房を構え、木工を楽しみながら情報を発信しているたくさんの人達がいる。「日本は木の国、木の文化」などと聞かされてきたが、米国などのほうが、はるかに木の文化が進んでいると感じるようになった。



ザリザリッ。小学4年生の男の子が握るノコギリはくねくねと直径20cm程の木の胴体を行き来した。森を守る為に木を伐っているのか、木は思ったより硬いな、様々な感情が彼の頭を廻る。四苦八苦の挙句、木がザブンと音を立て地面に体を横たえた。もやもやした罪悪感に似た思いは、射し込む陽に打ち消された。

森林保全作業は危険が伴う。知識と技術をもつ高尾グリーン倶楽部のご指導があって、子どもから大人まで貴重な体験ができる事は大変有難い。

書道教室が野外へ出たのは、世界が環境問題に関心を寄せていた7年前。用具の墨、硯、筆、紙等は自然由来、里山からの贈り物だ。里山文化源泉の森林で再生作業を行い、その現場で大地に

日本でも、木工を楽しみたい潜在人口は少なくないと思う。しかし、木工作业はスペースが必要で、騒音や振動が出るし、粉じんも舞う。おまけに、かさばる残滓の排出も多いので、住宅事情を考えて、ほとんどの人があきらめてしまうのだろうと思う。自分を振り返っても、マンション暮らしでできたことは、構想を練り図面を引くことぐらいで、グリーンセンターを利用できなければ、何一つ製作できなかった。

グリーンセンターは電気や水のインフラが整い、騒音や粉じんもさほど気がねがいらず、素材の調達や残滓の処分もしやすい。そのうえ、その気になれば、立木の伐採→造材→製材→加工→製品、という一連の工程を全て体験することさえ可能である。

ここまで恵まれた施設なのだから、木工愛好者が集って木材利用に知恵を出す拠点に発展すると良いと願う。(2019. 5. 31)

紙を広げ、毛筆ひと文字で環境への思いを書き発表する。書道が森林と関わる取り組み「アウトフィールド書道」を始めた。

その日、戸惑いつつ間伐した男児は「学」と書いた。木はみんな違う事や道具の使い方を学んだと言う。「命」は小5の女兒、小3の女兒は「光」。私は「創」、環境をどう考え伝えるか、創造する力が大切だと感じたからだ。

森林活動は環境への思いと表現への拘りを与えてくれる。

さあ子どもと出掛けよう。ノコギリと筆を持って。



八王子の自宅でカメ(亀)を飼うようになってから、かれこれ20年になる。息子たち兄弟が20歳前後の頃、近くの浅川(あさかわ:多摩川の支流)で手に入れた25センチほどの「ロシア・リクガメ」で、今も元気に放し飼いの庭を歩き回る。20年ほど前のある日、息子たちが浅川で釣りをして遊んでいたところ、バケツを持ったおばさんが現れて、「何日も前に家に現れたカメだが、持ち主が分からないので川に逃がしに(捨てに)来た。」との事。「このカメはリクガメだから川では生きられないよ。」と息子が言うと、おばさんは少し考えてから、「あんた達、良いところへ来た。頼むからこのカメをもらって頂戴。」とのことで、息子たちは迷わずこのカメを持ち帰り、家族の一員となった。

カメの名前は、「オグチ アサオ」。出会った場所の浅川にちなんでアサオ君に。家ではカメの飼育経験は無く、本やネットからの情報が頼り。それにしても元気で、病気もしない。こちらが庭で草取りなどをしていると、アサオ君はノコノコと

手元に寄って来て鼻でクンクンとチェックをした後、食べ物では無いと分かるとサッサと別方向へ退散する。また、アサオ君は、脱走の名手で、これまでに7~8回、家の庭から脱走しては、近所や警察のお世話になった。家の前の通りや、近くのバス停などに写真付きの「たずね人(カメ)の張り紙」を出したりもしたが、その都度、長い時は2週間も経ってから、ちゃんと家に戻っている。不思議な縁と思い、愛着は増すばかり。

家には猫2匹がいて、寒い時期には家の中でアサオ君と猫は同居しており、お互いが鉢合わせをしても、アサオくんは全く動じない。猫の方は、アサオ君と会うと、鼻を近づけたりするが顔色も変えず、いじめたりすることは無い。カメの動きは緩やかで、静かで、時折立ち止まっては遠くを眺めるようなそぶりをみせられると、何か別の世界にいるような気がして、いやし(癒し)を感じさせてくれる。これからも長くお付き合いをしたいと思っている。(2019.5.31)

梅ノ木平国有林に生息・生育する希少な動植物について

(2) 動物 今回は鳥類 3種を紹介します。

梅ノ木平周辺における動物相を調査・記録した文献は今のところありませんが、植物相が豊富なことから、動物相も豊かであると考えられます。ほとんどの動物が夜行性であったり人眼を避ける習性がある事から、直接出会う事は難しいのですが、糞、毛、足跡、巣穴、掘り起しの跡など痕跡は多くみられます。また、鳥類は鳴き声や姿を確認する機会があります。



①サンコウチョウ
カワサギヒタキ科サンコウチョウ属
絶滅危惧Ⅱ類(VU)
ツキヒホシホイホイホイ



②ミソサザイ
ミソサザイ科 準絶滅危惧(NT)
川岸の茂みに営巣
ピピチュイチュイチリリ



③オオルリ
ヒタチ科 準絶滅危惧(NT)
八王子の鳥に指定 美鳴の一種
ピーリーリー、チュー、ピーピー、ジジ

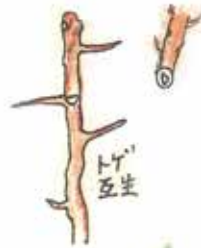
間伐によって林床植生の多様化はどれだけ進むのか、間伐後、自然推移によって針広混交林化は実現できるのかを調査するため、定点コドラートを4カ所設定して経年変化を調べた。そのうちの1つ(強度の間伐区)を紹介する。

| 間伐直後 | 間伐約1年後 | 2年後 | 約3年後 | 約5年後 | | 6年後 | | | |
|-----------|----------|----------|----------|----------|------|---------|----------|------|---------|
| 2012.11調査 | 13.6調査 | 14.10調査 | 15.9調査 | 17.7調査 | | 18.10調査 | | | |
| 生育種 | 生育種 | 生育種 | 生育種 | 生育種 | 本数 | 最大樹高(m) | 生育種 | 本数 | 最大樹高(m) |
| シラカシ | イヌザクラ | アカメガシワ | アカメガシワ | アカメガシワ | 7 | 3 | アカメガシワ | 7 | 4 |
| スギ | シラカシ | イイギリ | アラカシ | アラカシ | 4 | 3 | アラカシ | 9 | 4 |
| 高木樹種2種 | シロダモ | イヌザクラ | イイギリ | イイギリ | 10 | 2 | イイギリ | 4 | 4 |
| アオキ | スギ | カラスザンショウ | ウワミズザクラ | ウワミズザクラ | 1 | 1 | ウワミズザクラ | 2 | 5 |
| チャノキ | 高木樹種4種 | キブシ | エゴノキ | エゴノキ | 8 | 3 | エゴノキ | 5 | 5 |
| 低木2種 | アブラチャン | クサギ | カラスザンショウ | カラスザンショウ | 30 | 5 | エンコウカエデ | 1 | 2 |
| キジョラン | イヌザンショウ | ケヤキ | キブシ | クサギ | 8 | 4 | カラスザンショウ | 28 | 6 |
| ジャノヒゲ | イヌツゲ | シラカシ | クサギ | クマノミズキ | 5 | 3 | キブシ | 1 | 3 |
| ベニシダ | ウリノキ | シロダモ | クマノミズキ | シロダモ | 5 | 3 | クサギ | 6 | 4 |
| つる・草本3種 | サンショウ | スギ | ケヤキ | スギ | 10 | 20 | クマノミズキ | 2 | 4 |
| 合計 7種 | ヤマブキ等 | タブ | コナラ | タブ | 2 | 4 | コナラ | 1 | 1 |
| | 低木12種 | ハリギリ | ゴズイ | ヌルデ | 9 | 4 | シロダモ | 4 | 2 |
| | イヌワラビ | マダケ | シラカシ | ハリギリ | 23 | 4 | スギ | 10 | 20 |
| | エビネ | マルバアオダモ | シロダモ | マルバアオダモ | 3 | 2 | タブ | 4 | 3 |
| | キツタ | ミズキ | スギ | ミズキ | 2 | 2 | ヌルデ | 8 | 6 |
| | サネカズラ | ミツバウツギ | タブ | ヤマウルシ | 4 | 3 | ハリギリ | 29 | 5 |
| | チゴユリ | ヤブツバキ | ヌルデ | ヤマグワ | 8 | 4 | マルバアオダモ | 3 | 2 |
| | ツリフネソウ | ヤマウルシ | ハリギリ | ヤマザクラ | 2 | 2 | マメガキ | 1 | 2 |
| | ツツラフジ | ヤマグワ | マダケ | ヤマハゼ | 1 | 3 | ミズキ | 3 | 2 |
| | ツツラフジ | 高木樹種19種 | ミズキ | 高木樹種19種 | 132本 | | ムクノキ | 1 | 2 |
| | テイカカズラ | ガクウツギ | ミツバウツギ | アオキ | | | ヤマウルシ | 6 | 3 |
| | ドクダミ等 | クサイチゴ | ヤブツバキ | ウリノキ | | | ヤマグワ | 8 | 3 |
| | つる・草本41種 | クマイチゴ | ヤマウルシ | オニシバリ | | | ヤマハゼ | 1 | 3 |
| | 合計 57種 | コクサギ | ヤマグワ | コクサギ | | | 高木樹種22種 | 138本 | |
| | | タラノキ | 高木樹種24種 | サンショウ | | | | | |
| | | ニガイチゴ | オニシバリ | チャノキ | | | | | |
| | | ニワトコ | ツクバネウツギ | ヒメコウゾ | | | | | |
| | | マルバウツギ | ハナイカダ | ヤマブキ等 | | | | | |
| | | ミヤマシキミ | ムラサキシキブ | 低木19種 | | | | | |
| | | モミジイチゴ | ヤブムラサキ等 | イヌワラビ | | | | | |
| | | ヤマハギ等 | 低木18種 | オトコエシ | | | | | |
| | | 低木24種 | オトギリソウ | キジョラン | | | | | |
| | | イヌホオズキ | オニドコロ | キツタ | | | | | |
| | | オオイトスゲ | ススキ | ジャノヒゲ | | | | | |
| | | オカスミレ | タツナミソウ | テイカカズラ | | | | | |
| | | オカタツナミソウ | ナキリスゲ | ハエドクソウ | | | | | |
| | | オカトラノオ | ヒヨドリバナ | マタタビ | | | | | |
| | | ツユクサ | フタリスズカ | マルバスマレ | | | | | |
| | | ツルグミ | ヘクソカズラ | ヤブマメ等 | | | | | |
| | | ノブドウ | ミゾシダ | つる・草本31種 | | | | | |
| | | ヒメドコロ | ヤブマメ | 合計 69種 | | | | | |
| | | ヒヨドリジョウゴ | ヤブレガサ等 | | | | | | |
| | | ホウチャクソウ | つる・草本53種 | | | | | | |
| | | マタタビ | 合計 95種 | | | | | | |
| | | ヤマニガナ | | | | | | | |
| | | ヤマハッカ等 | | | | | | | |
| | | つる・草本74種 | | | | | | | |
| | | 合計 117種 | | | | | | | |

調査結果の概要
①間伐後、ひと冬経た6月の調査で、埋土種子等が一斉に芽吹き、総種数で57種を確認。2年後はさらに劇的に増加し、117種をカウント。その後、種数はやや減少したが林床の被覆は向上。
②高木樹種はやや遅れて増加し、3年後に24種をカウント。5年後、6年後の調査では樹種ごとの本数と樹高を測定した。6年後の高木樹種の総本数は138本(ha当り換算8,625本)、樹高も成長の良いものは4~5mに達しており、このまま推移すれば10数年程度で針広混交林化が達成可能と推定される。
③樹種はパイオニア種に加えて、イイギリ、ウワミズザクラ、カラスザンショウ、ハリギリ、ミズキなども伸長しており、その後は、高木種は淘汰され、成長の良い木が頭を伸ばし、低木・草本類は春先の日差しを浴び、ほぼ理想的な森林を形成していくと推測される。

3種のサンショウの見分け方

イラスト：加藤信夫



サンショウ

イヌザンショウ

カラスザンショウ

編集委員より



山で感じた事を拙いみそひと文字に表現してみました。

- ・蝶が舞い 小鳥が歌う森づくり 流れる汗に溢れる笑顔
- ・あしひきの ヤマドリのおむこの森に チェンソーの音響き渡りて
- ・月日星 恋いて鳴くのかサンコウチョウ ホイホイホイと清らに歌う
- ・陽だまりに生まれたばかりのアサギマダラ フワーリフワーリと 君は風の精
- ・西尾根のヒオウギ一輪かざしにし 歩めば歌の湧きいづらん
- ・春されば カワズの鳴く音澄み渡り 榎窪川は水清みかも

(編集委員：千谷恵子)

観光地として名高い高尾山、この周辺をフィールドに間伐等の森林の保全活動や自然観察などを行っている高尾山グリーン倶楽部の存在を知ったのは、龍さんからお誘いを頂いてからです。最初は下見のつもりで参加しましたが、チェンソーの使い方を教えて頂き、胸高直径 30cm クラスの立木を伐採させて頂いたことを思い出します。その後、月1回の定例作業日には出来るだけ都合をつけて参加するようになって3年、今でも先輩方に間伐作業等の手ほどきを受けて汗を流しています。これからも倶楽部の活動を通じて、社会貢献と自己研鑽に努めていきたいと思ひます。

(編集委員：猪島康浩)

2012年、「林業」についての学びと体験を求めて「高尾の森づくりの会」に入会しました。2014年に森林インストラクター試験にパスし、学びと体験をもっと積み上げ、身に付けていきたいと思っていた時でした。龍さんに声をかけていただき倶楽部に参加するようになりました。5年になります。入会してすぐにチェンソーと刈払い機の講習を受け、先輩のみなさんに教えていただきながら現在に至っています。伐倒技術を含め、安全について、道具の使い方、管理、ロープワーク等々まだまだ未熟そのものです。古希をすぎましたが、学びたいこと多々です。時々躓きますが、高尾グリーンセンターをベースに、自然体験、森林体験を求めてくる利用者の方々をも対象に、楽しく活動が前進することを望みつつ、さらに頑張りたいと思っています。(編集委員：小池鉄男)

編集後記

グリーン倶楽部の活動が活気に溢れ、森林活動を体験した参加者が森林の大切さを理解し、活動の輪が広がっていくことを願ひ、会報を発行しました。

会員の皆様、どしどし原稿をお寄せください。第2号発行に向けて担当者一同お待ちしています。